

三街道の自慢のそばを美味しく食べ比べ

2 市1町の自慢のそばを一度に味わうことができる「そばの里まつり」が7月8日(土)にクロスカルチャープラザ「桂桜会館」で行われ、町内外から大勢のそば愛好者で賑わいました。

このイベントは、村山市と尾花沢市、大石田町のそば店などで構成される「おくのほそ道最上川そば三街道協議会」が開催したものです。毎年、それぞれの市町が持ち回りで開催しており、今年は大石田町が会場となりました。最大の特徴は、村山産の「でわかおり」と尾花沢産の「最上早生」、大石田産の「来迎寺在来」の3種類の打ちたて、茹でたてのそばを食べ比べることができる点で、大変人気のイベントになっています。

来場者は、それぞれのそばの味や香りの違いを楽しんでいました。



商工会女性部が季節の花や風鈴で観光客をお出迎え

町 商工会女性部(鈴木栄子部長)による季節の花の植え替えと風鈴の飾りつけが、6月14日(水)にJR大石田駅で行われました。これは、町内外から多くの利用者が訪れる駅舎や駅前広場に賑わいを創出したいという思いで、同部が毎年実施している事業です。花の苗代や肥料代などの必要な経費は、毎年10月下旬に開催されている「新そばまつり」での天ぷら販売の売上金や町観光協会からの助成金で賄っています。

この日は、夏の花への植え替えや風鈴の飾りつけを女性部員自らが行き、夏の花の華やかさと涼しげな音を響かせる風鈴で、訪れた人を楽しませていました。

鈴木部長は「この事業をはじめから今年で13年目になりました。駅は町の玄関口なので、今年もきれいな花や風鈴で駅利用者をもてなしたいです」と話していました。



今年もプレミアム券を発売 使用期限は12月31日まで!

地 域経済の活性化と町民の方の生活支援を行うと、今年も大石田プレミアム券が発売され、初日の7月2日(日)には虹のプラザで発売開始イベントが行われました。

大石田プレミアム券は、プレミアム率30%が付いており、町内の商店や事業所など88カ所で使用することができます。また、販促事業として、7月31日(月)まで加盟店有志による様々な企画が実施されており、よりお得にお買い物や飲食、サービスを受けることができます。

プレミアム券は12月31日(日)が使用期限です。忘れずに使用いただくようお願いします。



山形県民謡王座最北地区大会 参加者が自慢の「のど」競い合う

山 形県の民謡チャンピオンを決める山形県民謡王座の最北地区大会が、7月9日(日)に虹のプラザ「なないろホール」で開催されました。大会には、「少年・少女の部」、「高年の部」、「一般の部」の3部門があり、最北地区の民謡団体に所属する60人が出場して、自慢ののどを競い合いました。大会では、前年の山形県民謡王座決勝出場者による唄の披露や踊り団体による演奏も行われ、客席からは大きな拍手が送られていました。

大石田町からは、大石田町民謡研究会のメンバーが出場しており、芳賀清さん(豊田)が一般の部で2位入賞を果たしました。芳賀さんは12月3日(日)に山形市で行われる山形県民謡王座に出場されます。大変おめでとうございます。



社会福祉活動に役立てて 大石田左官組合が社協に寄付金手渡す

大 石田左官組合(柴崎正二会長)が6月21日(水)に役場を訪れ、寄付金20万円を手渡しました。これは、同組合の「町の社会福祉活動に役立ててもらいたい」との思いから行われたものです。

いただいた寄付金は、社会福祉協議会が実施している生活困窮者への貸付け事業「たすけあい金庫」の原資として活用させていただきます。

大変ありがとうございました。



声に出して読みたい日本語 美しい響き楽しむ

町 立図書館が主催する読書会「声に出して読みたい日本語」が6月21日(水)に虹のプラザで行われ、町内外から11人が参加しました。この企画は、ベストセラー『声に出して読みたい日本語』で紹介されている有名な文学作品を、参加者で音読し、気軽におしゃべりを楽しもうというイベントで4年ぶりの開催です。

この日は、枕草子(清少納言)、夏は来ぬ(佐佐木信綱)、蜘蛛の糸(芥川龍之介)の3作を音読し、参加者は日本語の美しい響きを楽しんでいました。

読書会は今後、9月27日(水)に「ビブリオトーク〜好きな本を持ち寄ろう〜」、12月6日(水)に「声に出して読みたい日本語2」を予定しています。